

- (対象事業： 1. 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業
2. 先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業)

事業名：

小樽市博物館特別展小樽の銭湯いまむかし

事業者名：

小樽市博物館 または 小樽市教育委員会

連携事業館名：

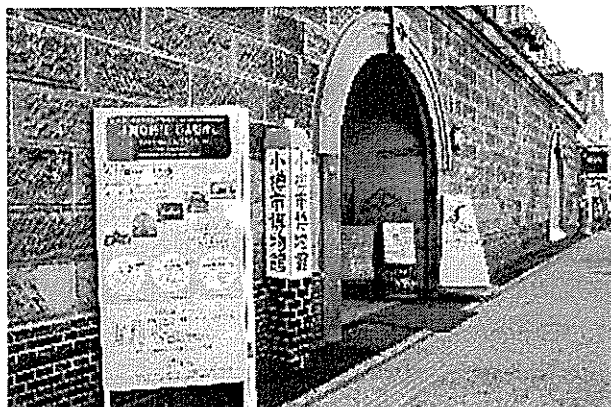
小樽公衆浴場商業協同組合

住所：北海道小樽市色内2-1-20

TEL：0134-33-2439

FAX：0134-22-2350

E-mail：hakubutu-kan@city.otaru.hokkaido.jp



①施設概要

展示室は第一・第二展示室で構成されており、歴史・自然・考古に分かれている。歴史は「商都小樽の歩み」と題し古地図やニシン漁の展示、自然は小樽周辺の情景のジオラマ等、考古は「大昔・ヒトと生活」と題し縄文時代後期の遺跡である忍路土場遺跡から発掘された資料をもとに古代の生活模様を紹介している。

②事業の意図目的

かつて、私達の暮らしの中で当たり前のようにあった風景が、失われつつある。その中のひとつに銭湯があり、その歴史を見つめ直す。学校教育の場以外で学べる様々なことを、子供たちに伝える。

③事業概要

本事業は、銭湯に着目した展示で、風呂に入るとい文化から、ペンキ絵など現代の銭湯によく見られる様々な文化を、実演（ペンキ絵）も兼ねて紹介する。また、少し前までは、銭湯に限らず他にもたくさんの教育の場があった。学校で学べない事を、親以外の人々から学ぶ場であり、社会の中でのマナーを身につける絶好の場でもある。人と人との交流を深められる場所が身近にたくさんあることを、親やその子供たちに伝え、残すことを目的とする。

⑥事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 図録 ポスター リーフレット チケット 銭湯ジオラマ
銭湯のコンピューターグラフィック 銭湯のDVD

⑦参加者状況

参加者人数 延べ 13,002 人

内 訳 大人：10,607人 こども：2,395人

講座の内訳

7月31日（土）ペンキ絵ライブ
大人：29人
子供：10人

8月 1日（日）講演会
大人：50人

8月 7日（土）ペーパークラフトで銭湯を作ろう
大人：4人
子供：15人

8月 1日（日）手拭いを作ろう
大人：4人
子供：5人

(1) 事業の実施状況について

大型浴場の進出や住宅事情も変わり、各家庭に内風呂がつくなど、銭湯ばなれが進んでいる。銭湯には銭湯でしか味わえない良さがあり、学校や家庭以外の地域のコミュニティ的な存在の銭湯を形にし、それを再認識してもらおうと企画した。

(2) 地域との連携について

スタンプラリーを通じて楽しみながら銭湯マナーを学んだり、ペンキ絵の実演と実際に体験することによって、絵の意味など新たな芸術性を再認識出来たのではないかな。

(3) 成果物について

図録はテーマが銭湯ということで手軽に持ち運びの出来る B5 版で作成した。内容は、かなり古い風呂の歴史から、北海道・小樽の風呂の歴史、浴場年表などを掲載した。ポスター、リーフレット、チケットに関しては手拭いをイメージし作成し統一感をもたせた。

(4) 参加者の反応

ジオラマ、コンピューターグラフィック、DVD の前で立ち止まる方がかなり多かった。そこから生まれる会話は、かつて自分が通った懐かしい銭湯と、自分の記憶を重ね、自らが解説者となっている光景がずいぶんと見られた。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

展示期間中、展示室では親子の会話が多く見受けられた。展示会場で視覚的に効果があった番台、浴室のジオラマと、かつて存在した銭湯の復元模型、コンピューターグラフィックの存在は大きい。また、現存する銭湯の昭和初期の浴室風景の DVD 化も人気を集めた。それらを目前に子供に説明をする親、手拭いを凍らせながら家路に着いた想い出話など、とりとめのない会話のやり取りが多かった。銭湯は単に入浴するだけではなく、町の情報交換の場として親しまれている。このようなコミュニケーションを作り上げることが大事である。今回の展示で少しでもきっかけ作りになったのではないかな。また、今後の博物館は、「見る」だけではなく「参加」していく協働型の運営を目指していくことが必要で、より広い層の市民を巻き込んでいく必要がある。今回の特別展の場合、地元の人々や組合と協力して、ペンキ絵の実演と体験を行い、市民は参加することによって、新たな芸術を再認識しただろう。